

— 年頭のあいさつ —

新 年 の ご 挨 捶



会 長

上ノ町 仁

新年明けましておめでとうございます。

先生方におかれましては、ご家族をはじめ職員の皆様とともに、清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年はスポーツ界では大リーグでの大谷翔平選手の大活躍や、大坂なおみ選手が全米オープンを20歳にして制覇し、イケメンコーチのコーチングも話題となりました。今年も大活躍を期待したいと思います。また、昨年は西日本豪雨や例年ない夏の猛暑に引き続き、北海道胆振東部地震と数多くの台風が日本列島に深い傷跡を残し、自然の猛威に人間の弱さを感じざるを得ませんでした。大規模災害への対策も、当医師会のみならず各都市医師会や九州管内での連携・支援体制の強化が必須と思われます。

さて、私は昨年6月末に鹿児島市医師会会長を拝命し、全てが初仕事であり緊張の中あっという間に半年が経ち新年を迎えました。所信で述べましたが、基本理念として「会員の先生方のために、そしてその先にある患者さ

んや市民の健康のために」を考え、自由に「議」を言い合い、充分に「議」をつくした後は「和を以て貴しとなす」医師会づくり、を掲げました。そして、医師会病院・臨床検査センターの共同利用施設の経営の安定化と、地域医療構想の取りまとめや地域包括ケアシステムの構築に取りかかりました。

医師会病院はご承知の通り、この3年間で少しずつ経営の改善傾向は見えますが、健全経営にはまだ道半ばで、安定化にはキャシューで2億円＝病床稼働率90%（市医報9号参照）が必要であり、会長就任後すぐに「あり方委員会」を再度立ち上げ、大いに「議」を言い合っています。今年の取り組みとしては、1~2月頃に代議員懇談会を開催し「あり方委員会」の方針を示し、そこで先生方と自由にそして充分「議」を言い合い「和」と「不断の努力」と「覚悟」をもって運営したいと思います。一方、臨床検査センターはSRLに業務委託し経営は安定傾向ですが、さらに精度・スピード・サービス（3S）を向上させつつこれからも気を引き締めて先生方のニーズに

お応えできるよう尽力いたします。

また、少子超高齢社会が進む中、医療は従来の「病院完結型医療」から「地域完結型医療」への変革が求められ、そのため地域医療構想の策定や地域包括ケアシステムの構築が進められています。その達成のために、これから医療は多職種と連携し「チーム医療」としての取り組みが必要となってきます。

地域医療構想に関して、厚生労働省は地域医療構想の達成に向けたロードマップのなかで、活性化に向けた打ち手として、1. 都道府県単位の地域医療構想会議の設置、2. 都道府県主催の研修会の実施、3. 地域医療構想アドバイザーの活用、4. 地域の実情に応じた定量的な基準の導入、を掲げています。

鹿児島保健医療圏においては3つの専門部会(高度急性期・急性期、回復期、慢性期・在宅)で現場の状況と意見を集約し、その親会である調整会議で公立病院・公的医療機関等2025プラン対象医療機関に意見照会、検討しているところです。今後も鹿児島県医師会を中心に各都市医師会と密に連携し、バランスを保ちながら鹿児島保健医療圏のあるべき姿を構築していきたいと思います。

そして、地域包括ケアシステムの充実した推進には、在宅医会との密な連携が必要であり、本年も隨時講演会や勉強会を開催予定です。皆さんの積極的なご参加をお待ちしております。

2019年の干支は己亥（つちのとい）で、「己は、完成した自己や組織が今までの慣習などを見直し、次の段階を目指す準備をする年。亥は、個人は人智を育み、組織は人材育成や設備や財務基盤を固める等、内部の充実を心がけると良い年」といわれてあり、今

後確実に訪れる少子超高齢社会に対し医療現場の変革へ対応できるようしっかりととした基盤固めの年とも考えられます。新年を迎える気持ちを新たに、鹿児島県医師会、各都市医師会や関係機関としっかりと連携し、先生方が安心して医療に取り組めるよう尽力したいと思いますので、本年もどうかよろしくお願い申し上げます。